

備えあれば憂いなし



災害時の対策について



議員

災害は想定外のことが起こる。災害時の対策として、初動体制、職員配置の体制のマニュアルはどうなっているのか。

市民生活部長

昨年の水害を受けて見直しを行い、案を作成した。

議員

水害からもう1年も経っていない。災害は待って欲しくない。いつころできるのか。

市民生活部長

内容的にはでき上がっているが、細かい部分について各課で

遠藤 正信 議員



の確認や、最終的な庁議での決定手続が済んでいない。

議員

完璧なものでなくていい。足りなければ付け加えればいい。いち早く出してもらいたい。次に、避難所の見直しについて伺う。総合福祉センターのよう現在使えない施設も避難所になっている。「今は使えませんが、今は使えませんか。新たな避難所はここです。」と周知徹底するのが当り前ではないか。いざというとき総合福祉センターがそのまま避難所になったらどうするのか。

市民生活部長

地域防災計画の見直しにあわせて、修正をかけた。

議員

あれから日にちが経っている。一番喫緊の情報をきちんと市民に伝えるということは、行政の役割ではないか。次に、災害対策本部のメンバー構成について尋ねる。議員は地域をよく見ている。対策本部に議長が入っている。連携して地域の情報が対策本部にきちんと伝わる。議長もしくは副議長を構成メンバーに加えていただきたい。

市民生活部長

地域防災計画の見直しの中で協議、検討させていただきたい。



神達市長に問う

忘れない、感謝のきもち

議員

水害からの復旧の方針を神達市長に伺いたい。

市長

まずは、常総市に戻りたくても戻れない79世帯の方々に一日も早く常総市で元の生活を取り戻していただくことに全力を尽くしていきたい。市民一人一人が元の生活を取り戻すことができなければ、復旧をなし得たとは言えない。国・県、近隣市町村ともつと絆を深め、防災先進都市として復旧に向かっていきたい。

議員

市長就任後、一番最初に指示したことは。

市長

今回の災害では、市民と行政の情報共有がもっと迅速であれば、助かった財産もたくさんあったと思う。そのためには、まず庁内の情報共有が何よりも大事であり、横連携をもっとしていこうという話をした。

議員

水害からの復興の方針について伺いたい。

市長

これまでお世話になった全国の皆さんに感謝をすることから復興は始まる。感謝があるからこそ、次の復興への希望や行動が出てくるのだと思う。そして、常総市が前に向かって進んでいく姿を発信することが、お世話になった皆さんへの恩返しにつながるかと信じている。

議員

庁内の組織・体制について伺う。トップの考えを実現していくためには、もっと効率的な体制が望まれるのではないかと。

市長

トップの方針を末端までスピーディーに共感、共鳴を得られるような組織づくりを検討していきたい。

議員

縦割りの行政を脱ぎ去り、いろいろなアイデアや切り口を出し合って、全庁一丸となって問題に取り組み、常総市全体チームプレーで復旧・復興を成し遂げたい。

金子 晃久 議員

